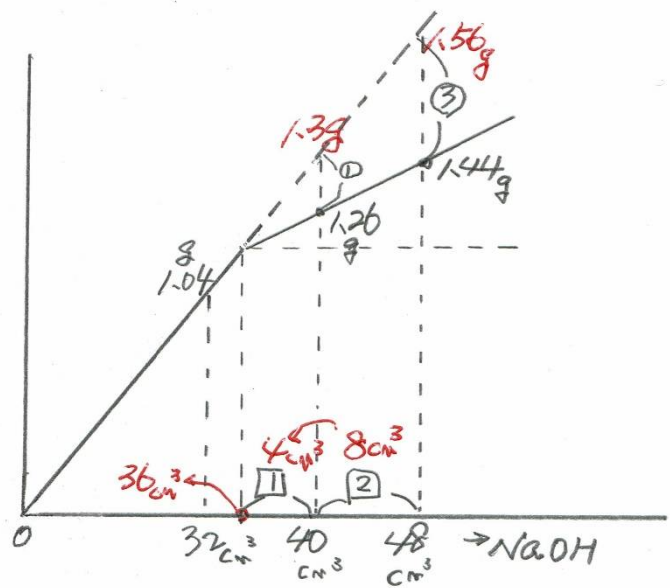


1	イ	28	②	55	オ
2	ウ	29	ウ	56	ア・イ
3	①	30	^{ゆうてん} 融点	57	ア・ウ・エ・オ
4	1.1	31	50円・100円	58	ア・イ・エ・オ
5	A	32	5円	59	イ・オ
6	ウ	33	10円	60	水素
7	エ	34	500円	61	水素
8	ア	35	14	62	ア・エ・カ
9	1.5	36	225	63	イ
10	^{せっかいすい} 石灰水	37	450	64	ア
11	エ	38	800	65	37.5
12	0.975	39	アルミニウム	66	青
13	オ	40	0.3	67	食塩と水酸化ナトリウム
14	エ	41	400	68	^{ほうわ} 飽和水溶液
15	①	42	2.0	69	$C > B = D > A$
16	エ	43	2.2	70	$B > A > D > C$
17	水	44	720	71	A
18	③	45	4.3	72	75
19	A	46	400		
20	イ	47	1200		
21	⑦	48	変わらない		
22	②	49	早くなる		
23	イ	50	16.3		
24	オ	51	4.9		
25	⑥	52	10		
26	B	53	20		
27	オ	54	7.1		

- 1 15.2
- 2 食塩
- 3 B・D・F
- 4 A
- 5 1.75
- 6 36
- 7 ウ
- 8 エ
- 9 ア
- 10 カ
- 11 エ
- 12 ウ
- 13 イ
- 14 ウ
- 15 225
- 16 イ
- 17 17.3
- 18 0.4
- 19 13.5
- 20 375
- 21 35
- 22 食塩
- 23 食塩
- 24 食塩と水酸化ナトリウム
- 25 36
- 26 0.27



※ 100 cm³(水素)のとき、アルミが余っていて塩酸はすべて使っていることが分かる。
 0.2g(アルミ)に反応するのは 250 cm³(水素)までだから、 $250 \text{ cm}^3(\text{水素}) \times 0.3\text{g}(\text{アルミ}) / 0.2\text{g}(\text{アルミ}) = 375 \text{ cm}^3(\text{水素})$

※ 0.2g(アルミ)に 250 cm³(水素)を発生させるために、 $4 \text{ cm}^3(\text{塩酸}) \times 250 \text{ cm}^3(\text{水素}) / 100 \text{ cm}^3(\text{水素}) = 10 \text{ cm}^3(\text{塩酸})$ が必要だから、 $10 \text{ cm}^3(\text{塩酸}) \times 0.7\text{g}(\text{アルミ}) / 0.2\text{g}(\text{アルミ}) = 35 \text{ cm}^3(\text{塩酸})$ と分かる。

食塩 ※ 32 cm³(水酸化ナトリウム)のとき、1.04g(食塩)ができているから、
 $1.04\text{g}(\text{食塩}) \times 40 \text{ cm}^3(\text{水酸化ナトリウム}) / 32 \text{ cm}^3(\text{水酸化ナトリウム}) = 1.3\text{g}(\text{食塩})$ 、
 $1.04\text{g}(\text{食塩}) \times 48 \text{ cm}^3(\text{水酸化ナトリウム}) / 32 \text{ cm}^3(\text{水酸化ナトリウム}) = 1.56\text{g}(\text{食塩})$ あとは上図を見る。👉